

「K-PLEX工法」など紹介 定例サロン、約40人が参加 広島県コンクリート診断士会

広島県コンクリート診断士会（米倉亜州夫会長）の2カ月に一度の定例サロン（第33回）が11日、広島市中区であり、会員約40人が参加。鈴木智郎副会長の豊富な現場経験に基づく橋梁長寿命化の話や、既設構造物にプレストレスを与える新技術「K-PLEX工



サロンの様子

法」の概要などを熱心に聴講した。

サロンは、会員の技術向上や親睦を目的とした勉強会。定期開催が会員に浸透し、協会活動が活性化するにつれ、参加者も少しずつ増加している。

この日の講義は2部構成で、前半では鈴木副会

長（復建調査設計）が「橋梁分野における長寿命化計画と維持管理について」をテーマに、橋梁の定義と種類などの基本事項から国土交通省の老朽化対策、長寿命化の事例などを紹介。「昔は橋梁の寿命は50年とされたが、50年で寿命を迎えることはまれ。しかし、老

朽化・劣化して危険な状態となる橋梁が必ず増加してきていることも事実だ」とし、「早め早めの健康診断で延命化を図るべき」と結んだ。技術者として現場に向いて確認することの重要性も説いた。

また、後半の講師を担当した三原孝文氏（極東興和）は、「K-PLEX工法の紹介」と題し、同社が山口大学と共同開発した既設コンクリート構造物へのプレストレスト導入技術について、工法の概要や開発の背景、幅・部材追加や内部補強といった適用事例などについても解説。

打継ぎ面プレストレスを導入することによる耐久性の向上、既設構造物に導入できることの経済的メリット、導入に伴う削孔数の削減—などといった特長も示した。